

命題「ミサイル防衛の課題」について

[説明者略歴]

氏名 坂上 芳洋
出身 富山県南砺市（旧富山県西砺波郡福光町）
最終学歴 昭和 42 年 3 月防衛大学校電気工学科卒
現職 防衛アナリスト兼財団代表理事・企業役員・企業顧問

[主要職歴]

昭和 42 年 3 月、海上自衛隊入隊、海上部隊護衛艦科長、海上部隊司令部僚、陸上部隊研究員、防衛庁海上幕僚監部防衛部勤務、米国留学（2 回）をて衛艦艦あやせ艦長、第 46 護衛隊司令、防衛庁海上幕僚監部防衛部通信課長同装備体系課長、平成 8 年 7 月、任海将補、第一護衛隊群司令、平成 10 年 6 月環太平洋合同演習日本部隊指揮官、阪神基地隊司令を経て、平成 11 年 12 月、海上自衛隊勇退、現職（防衛アナリスト）。米国レイセオン社シニアアドバイザー、ダイキン工業特機事業部顧問を歴任。現役中から、**Multinational BMD Conference** に出席、勇退後から数次にわたり同 **Conference** で論文を発表しわが国の弾道ミサイル防衛導入に貢献。

[発表説明要旨]

我が国を取りまく国際情勢から我が国のミサイル防衛に関して何が欠けているかをシンクタンクとして政府与党に訴えるための内容。広く国民に知らしめ、国の安全保障政策、特にミサイル防衛政策に反対を唱える野党、有識者にシンクタンクから発信し、我が国の行く末を説く。内容は、次からなる。

- ミサイル脅威の共通認識
北朝鮮、中国、ロシア、韓国、台湾の巡航ミサイル、弾道ミサイルとわが国への推定脅威と推定意図
- 超音速ミサイルの開發現状
ロシア、中国、インドの米国の **Global Prompt Strike** 構想に対抗するロシア、中国の対抗兵器について紹介。
- わが国ミサイル防衛の現状と推定能力評価
ミサイル防衛の現状、推定能力評価と解決策。
- 計画中の我が国のミサイル防衛と所見
各計画に対する所見と変更要望。
- トランプ政権の **BMD Review**（要旨）
内容と我が国のミサイル防衛に関する見直しの必要性。
- 我が国のミサイル防衛のあるべき方向（総合所見）
ミサイル防衛の要訣及び整備内容。

2018年1月19日

防衛装備・技術について

----研究開発を中心として----

前防衛装備庁長官 渡辺秀明

- 1 はじめに 防衛装備庁の設立とその背景
- 2 装備技術に関する4つの方針
- 3 防衛技術の方針
 - ① 防衛技術戦略
 - ② 中長期技術の見積もり
今後の重視分野
ア 無人化技術
イ スマート化とネットワーク化技術
ウ 高出力エネルギー技術
エ 現有装備の機能・性能向上技術
 - ③ 研究開発ビジョン
研究開発のロードマップを作製
ア 将来戦闘機ビジョン
先進技術実証機
イ 無人機ビジョン
 - ④ 安全保障研究推進制度
先端的技術の育成
- 4 プロジェクト管理の実施
 - ①取得計画戦略について
中距離地对空誘導弾の開発
 - ② 海上自衛隊の新たな護衛艦の取得について
- 5 海外との装備技術協力について
 - ① 海外との各国との協定締結状況
 - ② 日米共同開発
弾道ミサイル防衛用能力向上型迎撃ミサイルの開発状況
 - ③ 東南アジアとの防衛装備技術協力

略歴



なべた としひさ
鍋田 俊久

The Avascent Group Ltd., Director, Japan Operations
(日本担当部長、東京事務所代表)

1960年東京生まれ。1984年3月に一橋大学商学部卒業し、同年4月より三菱商事株式会社に入社。爾来、28年に亘って宇宙航空関連の業務に従事し、中部支社(約3年間)、ボストン事務所(約6年間)での駐在経験を有すると共に、2011年9月から2012年6月にかけて留学した米国防大学(National Defense University, Industrial College of the Armed Forces)にてNational Resource Strategy(国家リソース戦略)の修士号を取得。2015年4月より2017年4月にかけて機械グループGCEOオフィスに新設した事業開発推進ユニットの次席として、船舶・宇宙航空事業本部、及び機械グループ全般の新規事業への取組推進に向けた様々な施策を企画・発案した後に、三菱商事を早期退職し、2017年5月より戦略・マネジメントコンサルティング会社The Avascent Group Ltd.の日本担当部長として初の同社東京事務所を開設し、現在に至る。

以上